

4月から藤岡副院長（8月から院長）と築城医師の2名の脳神経外科医師を迎え、脳神経外科診療を開始した。手術に関しても4カ月間の準備期間を経て8月から本格的に稼働開始し、2009年度は、脳動脈瘤のクリッピング・脳腫瘍摘出術・開頭血腫除去術・シャント等12例の手術を行った。外科系全体では、11月から常勤の麻酔科医師が不在となり、手術の計画や緊急対応に苦勞しながらも前年度同様400例を超える手術を行うことが出来た。内科系も専門性の高い医療を少ない人数で、精力的に提供し続けている。

専門分野のみではなく、栄養管理、褥創治療、癌化学療法、緩和医療等の多職種で構成されるチーム医療でも、中心的役割を担い、地域のニーズに応えられるように努力した。

また、前年度同様済生会熊本病院および熊本大学医学部附属病院から入院診療・外来診療・日当直等の多大な支援を受け、地域の皆様に安心して診療を受けていただける病院を維持していくことが出来た。

外来延べ患者数は、39,002人（前年度38,090人）で、1日平均133人（前年度130人）と僅かながら増加したが、新入院患者数は1,694人（前年度1,823人）と129人減少した。

一方、救急患者数は前年度2年連続して減少していたが、4,946人（前年度4,910人）、救急車搬入数が846人（前年度757人）とわずかながら増加がみられた。救急車の地区別受け入れ状況は図のように、大矢野地区が53.4%、宇城西が25.9%とその比率に大きな変化はない。

